






- 1 11月の活動報告
12月の活動予定
- 2 事業報告
建築子供プログラム
小西 毅
- 3 姫路建築探訪
F.39-V.11 桜山貯水池(桜山ダム)
石原 弘一
F.40-V.17 塚本固寧倉
福岡 憲昭・山本 薫

表紙写真 塚本固寧倉(姫路建築探訪より)

11月の活動報告

- 11. 8 (火) 模型体験講座(ものづくり体験館)
- 11. 10 (木) 模型体験講座(ものづくり体験館)
- 11. 16 (水) 第18回環境デザイン研修会(姫路建設会館)
- 11. 17 (木)  CPD認定講習会
第8回構造学習会(姫路建設会館)
- 11. 21 (月) 模型体験講座(ものづくり体験館)
- 11. 24 (木)  CPD認定事業
第8回建築相談(姫路市役所)
- 11. 25 (金)  CPD認定事業
第18回建築子供プログラム(広峰小学校)



■第8回構造学習会 報告



13名の出席で、鉄骨造の実践で、固定モーメント法での鉛直荷重応力計算とD値法での水平荷重応力計算を受講生の方に実際にシートを使って数値入力をしていただきました。
次回も復習をかねながら、部材算定へ進んで行く予定です。

(報告 石原 弘一)

12月の活動予定

- 12. 10 (土) 支部忘年会(旬美)
- 12. 15 (木)  CPD認定講習会
第9回構造学習会(姫路建設会館)
- 12. 21 (水) 第19回環境デザイン研修会(姫路建設会館)
- 12. 22 (木)  CPD認定事業
建築相談(姫路市役所)

平成28年度 姫路支部事業活動

第18回 建築子供プログラム 報告

日時 平成28年11月25日（金）8：30～12：25
場所 姫路市立広峰小学校
参加者 広峰小学校5年生（3クラス、111名）、支部会員：18名

姫路支部では、市内の小学校5・6年生対象に定期的に出張授業を行っています。今年度は、姫路市立広峰小学校5年生を対象に実施しました。内容は、①設計、②Q&A、③パネル展示、④モルタル作り体験の4項目です。

①計は、建物の平面計画及び間取りを考える目的で、小学生を6名程度の小グループに分け、自分たちで考えたプランを発表しました。

②のQ&Aは、開催した広峰小学校内の各所を事前に撮影しておき、その写真を元にクイズ形式で、建築について学びました。

③のパネル展示では、建築の各職種についてのパネル展示の説明や建築材料に触れ、釘打ち体験やペンキ塗り体験も行いました。

④のモルタル作り体験では、砂とセメント、水で実際にモルタルを練り、型枠に流し手形をつけ、モザイクタイル等で飾り付けをしました。

この事業を契機に、こども達が建築に興味・関心を持って将来、建築に携わることを期待します。真剣に楽しそうに取り組んでいる様子を見ることができ、我々支部スタッフも楽しく事業を実施できました。



(報告:小西 毅)

名称：桜山貯水池（桜山ダム）

建築年 着工：昭和15年（1940年）
完成：昭和37年（1962年）



写真1 こどもの館より桜山貯水池全景



写真2 堰堤北より

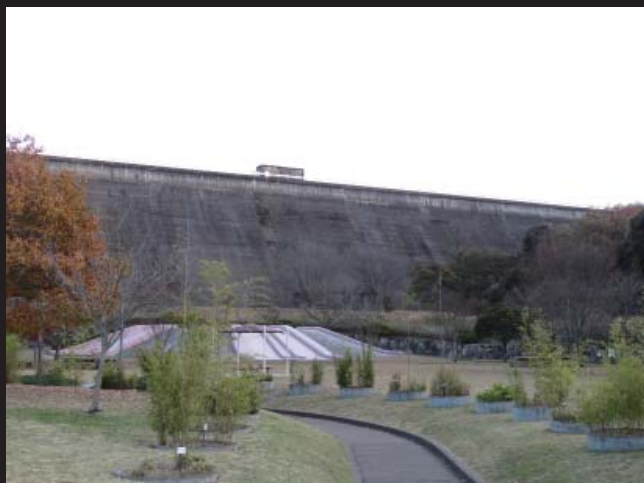


写真3 ダム下芝生大広場より堰堤を見上げる



写真4 堰堤北より重力式ダムを見る

桜山貯水池（桜山ダム）は姫路市で一番大きな人造湖で、周囲およそ4キロメートル、総貯水容量446万立方メートル、最大水深30メートルで、堰堤高さ39メートル長さ350メートルのコンクリート重力式ダムである。（写真2、3、4）日本製鐵広畑製鐵所（現在の新日鐵住金広畑製鐵所）の溶鉱炉および圧延機の冷却用の工業用水を確保するための保安用として計画され、昭和15年に着工したが、第2次世界大戦による資材不足で昭和20年に一旦中断された。戦争終結後、昭和28年に揖保川から新日鉄までの用水路の中間の勝原に宮田ポンプ場が設置され、昭和35年から、堰堤（えんてい）の嵩上げ工事が再開され、送水管が繋がり、昭和37年に現在の姿で完成した。

ダム湖の周辺は戦時中の防空壕などが、点在していたが、兵庫県および姫路市が「桜山公園」として貯水池周辺を整理し1987年（昭和62年）に8キロのハイキングコース点を備えた「自然観察の森」、1989年（平成元年）に幼児教育センターを併設した工作体験なども可能な児童館「兵庫県立こどもの館」、1992年（平成4年）に安藤忠雄の設計による宿泊可能な児童向け天文観測施設「星の子館」、1993年（平成5年）にはプラネタリウムを備えた児童向け科学学習施設「姫路科学館」（通称「アトムの館」）が整備された。また堰堤の麓にはスポーツ広場と遊具を備えた「ダム下芝生広場」が整備されている。（写真3）

堰堤は残念ながら立ち入り禁止となっているが（写真5）「兵庫県立こどもの館」から桜山貯水池が一望できるスポットがあるので是非機会があれば一度訪れてみてください。（写真1）



写真5 堰堤北側にあるゲート



写真6 ゲート門柱のプレート

名称：固寧倉（こねいそう）

所在地：①姫路市夢前町置塩
②姫路市夢前町塚本

【概要】

酒井家はすでに前橋藩時代の貞享2年（1685）低利貸付制度である社倉法を実施し、寛延2年（1749）姫路転封から9年の後当地でも施行していた。文化6年（1809）飾西郡町村組大庄屋らが河合寸翁に備荒貯蓄を目的とする倉庫の創設を建議し、藩主酒井忠道がこれを取り上げ、各村からの創設願をうけて1ヶ村または2～3ヶ村に1ヶ所、備荒貯蓄を目的とする固寧倉が設置されていき、文化10年（1813）までに60ヶ所、弘化3年（1846）までに288ヶ所に設置された。

固寧倉の名称は幕府儒者の林述斎が『書経』の「民惟邦本、本固邦寧」から撰んだものと伝える。

姫路市文化財課ホームページより



【感想】

平成28年を振り返り、個人的に一番心に残ったのは佇まいや趣、周辺環境との調和はもちろん管理していらっしゃる方の思い入れも考えたら、夢前町の『佐野邸』かなあ？

と一年の見学を思い出し物思いに耽っていると福岡さんから「夢前町に、まだ『固寧倉』が存在するらしい。」との情報が。

姫路市のホームページで確認でき3月に見学した『固寧倉』は5棟、他の地域（福崎町、市川町）にも存在している事は知っていたが、姫路市内にまだ現存しているものがあるとは知らなかったの、早速現地に向かった。

雨の降る村の集落内にその『固寧倉』はひっそりと建っていた。他の『固寧倉』と比べると規模が小さいが瓦屋根に白い壁、腰はナマコ壁と建物的には一番しっくりとくる外観である。

文化財を示す案内標は、姫路市と合併する前の夢前町時代からのもの様で、成り立ちや特徴が記されているが、消えかきり全てを読むことはできなかった。また、『固寧倉』の特徴の一つである 扁額は取り付けられていなかった。ただ、案内標には、扁額の記載もあり、かつてはきちんと存在していたことがわかる。

福岡さんと折角なので『固寧倉』発祥の地にも足を運んでみよう。と言うことになり紅葉の綺麗な峠を一つ越えて「置塩城跡」周辺を目指す。

『固寧倉』発祥の地はこの地域の駐車場になっていた。文化財の匂いのするものはないかと周辺を探すと道標らしきものがあるが、かなり表面が崩れ字がうまく読み取れない状態だった。

敷地内に昭和4年の字限図を元に制作された地図の看板があったので見てみると、この地域は「置塩城」の城下町で栄えていた様で、古そうな建物があるかと 街歩きもしてみたが古い民家が少し確認できた程度が目立った古建物は確認できなかったのが残念だった。

この看板に書いてある ○○神社跡 △△寺跡 □□屋敷跡 など全て残っていると見ごたえのあるまた、風情のある街並みになったらうなあ…

平成28年の見学もこれで終わりです。今年は熊本地震や鳥取地震が象徴するように災害が多い年となりました。

災害の多い年の最後が災害時の備蓄倉庫である『固寧倉』であることは偶然なのでしょうが何か因縁めいた意味のあるものだと感じました。案内標にも書かれているように、『固寧倉』は災害時に食糧難にならないように穀物を保存しておくためのものであり、事情によって食料の確保が困難な人に穀物を貸し出してもいた様です。東北の津波被害においても、津波被害に遭わないよう注意喚起の道標があったと聞いています。

我々、建築に携わる人間はもう一度先人の残してくれた知恵や工夫を見つめ直す時が来ているのではないかと現地を後にしました。

追記：平成28年の見学はまさかの『固寧倉』となりました。一年間色々なところに行かせていただき身近な場所に、こんなに興味深い建築物があるとは思ってもいませんでした。古建築はどうしても文化財が多く、「文化財中心の観光案内的な紹介は嫌だなあ…」と福岡さんと話しています。今後どこまで続けられるか？ あっと驚くような誰も知らない古建築が紹介できるのか？ 正直分かりませんが、楽しみながら出来るだけ続けていこうと思います。